

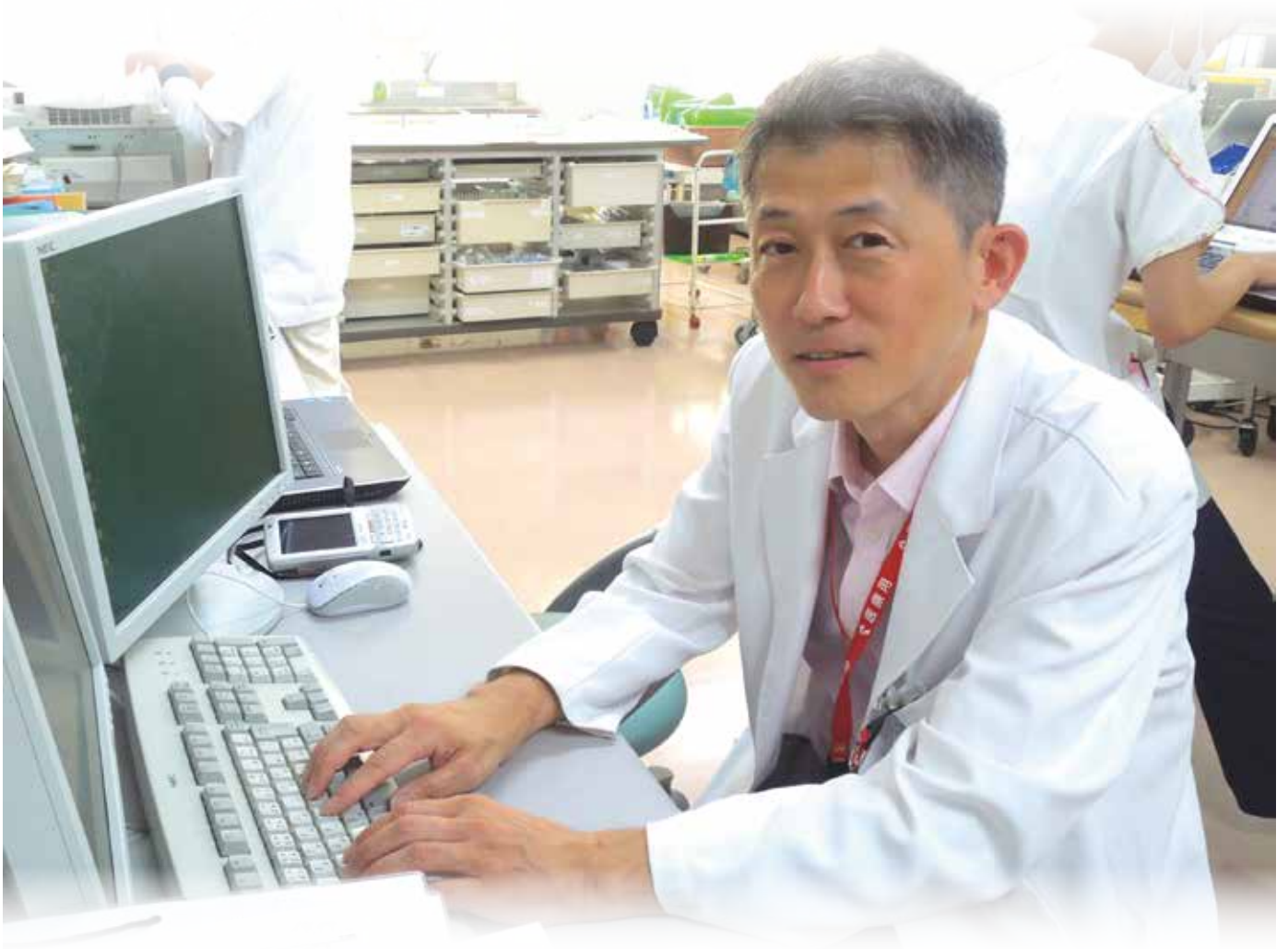
ね

FUCHU HOSPITAL

っとわーく

Vol.196

2019.9



真のアウトカムを考慮した 経口血糖降下薬選択



府中病院

地域医療連携室

真のアウトカムを考慮した経口血糖降下薬選択

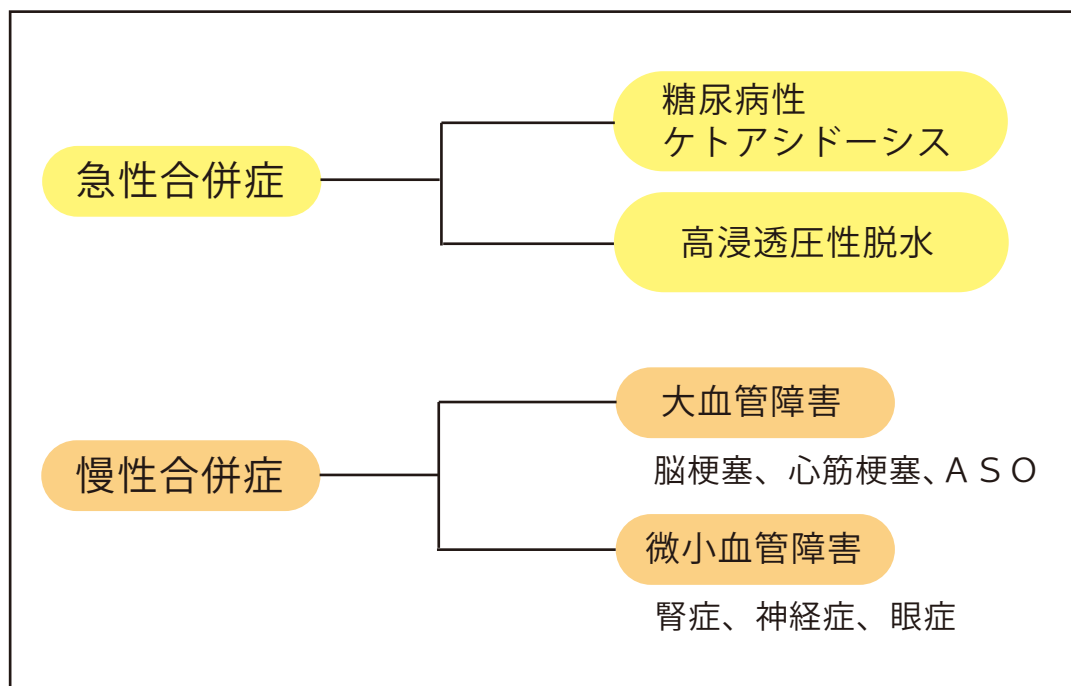
はじめに・・・

糖尿病の治療目的は何でしょうか？ **血糖値**を下げることでしょうか？
糖尿病治療の真のアウトカムは**合併症**を予防することであって血糖値を下げる
ことだけではありません。下記に糖尿病による合併症の主なものを挙げて
います。

では、血糖値が下がれば合併症は予防できるのでしょうか？それはランダム化
比較試験をしてみないとわかりません。現在種々の**経口血糖降下薬**が市販さ
れているわけですが、大きく2つに分けられます。一つ目は血糖値が下がる
が合併症予防にエビデンスがない薬、もう一つは合併症予防にエビデンスが
ある薬です。「エビデンスがある」とはランダム化比較試験においてプラセ
ボとの有効性比較で「統計学的に差がある」とされているという意味です。
スルホニルウレア、DPP-4 阻害薬、チアゾリジン系、 α -グルコシダーゼ阻害
薬、グリニド系などは血糖値が下がりますが合併症予防については質のいい
研究でエビデンスは証明されていません。ビグアナイド系、SGLT-2 阻害薬、
GLP-1 受容体作動薬はエビデンスが証明されています。

しかしだからと言ってこれらの薬に変更しましょうというわけではありませ
ん。

治療ゴールをどこに置くかによって選択する薬剤は変わることを知ってい
てください。高齢の方では合併症予防ができなくても血糖値が低下し副作用が
少ない薬剤を選択することが大事かもしれません。働き盛りの方では合併症
予防も考慮した薬剤選択が必要かもしれません。大事なのは薬を選択する医
師が患者の状況に合わせて治療ゴールを設定し、薬剤選択ができるように
なることです。有効性以外にも副作用、投与回数、コスト、薬の管理者が誰な
のかも考える必要があります。



エビデンスの使い方・・・

EBM というと患者さんを同じ治療ラインに乗せることと勘違いされる方がいます。「心不全の患者には全員βブロッカーを投与しなければいけない」のでしょうか？確かに収縮障害のある患者にβブロッカーを投与することは生命予後改善という点で有効性が証明されています。しかしEBMは本来**一人一人の患者の状況に合わせて治療方針を考えるオーダーメイドメディスンを行う**ためのものです。全員を同じ治療ラインに乗せるレディーメイドメディスンが目的ではありません。患者の背景、希望、人生観などを主治医がくみ取りそれに合わせて治療ゴールを設定しランダム化比較試験の結果も考慮したうえで薬剤を選択するというのが正しい使い方です。そこには主治医の裁量が入る余地があるわけです。

くれぐれも evidence biased medicine とならないようにご注意を。これらの話は「JAMA user's guide to the medical literature」という本に書かれています。

さいごに・・・

地域医療を行う医師にこそEBMの使い方を知ってもらう必要があると考えています。有名な先生の specialist opinion や薬屋さんの販売促進に振り回されることなく、患者の方針を決定する主体として主治医の役割を果たすことができれば**ポリファーマシー**の問題も改善されるのではないのでしょうか？

府中病院総合診療部では初期研修医教育にEBMの使い方を取り入れています。

将来何科を専門とすることにかかわらず患者の方針を自分で考えられるようになるためには必要だと考えているからです。

今月の担当医師



総合診療センター 副部長 西村 光滋

< 資格等 >

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医

日本医師会認定産業医

府中病院オープンホスピタル2019

参加費
無料

10/20(日) 12時 ~ 16時

**わくわくウキウキ府中体験！
開催いたします！**

日時：2019年10月20日(日) 12:00 ~ 16:00 (開場 11:45)

どなたでもご参加いただけますので、お子さんから大人の方まで多くの方のご参加をお待ちしています。

2019. 10 月

第 20 回病診オープンカンファレンス（総合診療センター）

当院初診・再診患者さんの症例提示（2 症例）

日時：2019 年 10 月 24 日（木） 15：30～16：30

場所：府中病院 東館 1 階 健康教室

2019. 11 月

第 19 回府中臨床懇話会

【一般講演】

『内科医による手・爪の診察』

府中病院 総合診療センター 副部長 西村 光滋

『新設の府中アイセンターについて』

府中アイセンター センター長 下村 嘉一

【特別講演】

『患者として医師として、もう一度皮膚疾患を考える』

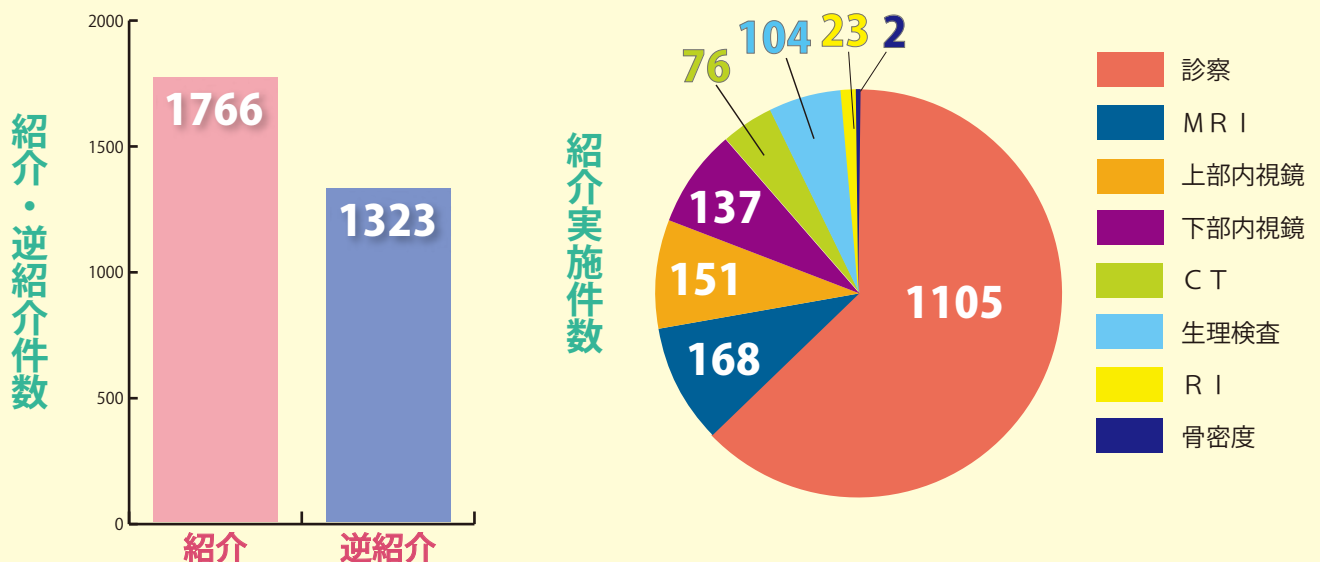
大阪市立大学大学院 医学研究科 皮膚病態学

教授 鶴田 大輔先生

日時：2019 年 11 月 30 日（土） 15：00～17：00

場所：ホテルレイクアルスターアルザ泉大津 4F ロイヤルホール

紹介実績<2019 年 8 月>



2019年9月・196号 ネットわーく

発行責任者：院長 竹内 一浩
 編集責任者：地域連携部 松田 有裕
 編集者：地域医療連携室 森 舞子
 〒594-0076 和泉市肥子町1丁目10番17号 府中病院 地域医療連携室
 TEL：0725-40-2147 予約専用フリーダイヤル：0120-40-2147
 FAX：0725-40-2148 E-mail：chiikirenkei@fh.seichokai.or.jp

私たちの理念

愛の医療と福祉の実現。
 地域と職員と共に栄えるチーム
 Yu・ki・to・do・ku ゆき届いたサービス

私たちの基本方針

チームとして、そしてパートナーとして
 チャレンジします。
 3つのベストにチャレンジします。